

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	R.K	学部・学科	国際商学部・国際商学科
学 年	2	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
コース名	International Summer Institute for Business Management		
期 間	2025 年 8 月 4 日～2025 年 8 月 22 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は、1 日 6 時間、午前 3 時間午後 3 時間の構成でした。授業は、Business Communication, Entrepreneurship, Service Management, international Business, の 4 種類の授業がありました。授業数的には、Business Communication が 1 番多く、他の授業は 4 コマずつあり、2 コマずつで異なる先生が担当して下さっていました。全て授業は英語で、先生が理論の説明をしてその後実践をするというのが、主な授業構成です。授業中に、グループでコミュニケーションを取ることも多くありました。授業の資料は事前に確認できるようにっていて、予習がある授業も多々ありました。予習では、外出を要するものがあり、私のグループはウォルマートへ実際に行き、日本のスーパーとの相違点を探し、プレゼン資料にまとめるというのが予習として課されました。平日は、ほとんど、宿題や予習、プレゼン準備をして 1 日が終わっていました。授業中にプレゼンをすることが多く、毎日異なるプレゼンの準備をするのが忙しかったです。最終日には、今までの学びの集大成として 15 分ほどのプレゼンがありました。最終プレゼンの内容は、新事業の提案で、最後に表彰もありました。特に、印象に残った授業は、Entrepreneurship の授業です。この授業では、わらしべ長者をする課題が出ました。この課題を通して、グループの仲が良くなったと思いますし、現地の大学生とコミュニケーションを取る貴重な機会となりました。また、最終日には、テストもありました。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

日本の授業で学ばないような論理も多く学びました。特に、アントレプレナーシップの授業は興味深い理論を多く学びました。特に、Blue Ocean strategy や Red Ocean Strategy はとても興味深く、最終プレゼンでもこの理論を用いて発表を行ったことで、高い評価を得ることができました。また、英語の知識は多く得るものがありました。英語で授業を受けたことで、リスニング力も高まりましたし、グループで話し合いをする際には英語を用いるので、スピーキング力も高まりました。また、プレゼン力も高まりました。総合的に、このプログラムを通して、様々なビジネスの知識を学び、実際に実践することで定着させることができ、満足度の高い授業でした。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、英語が理解できるのだろうか、授業についていけるのだろうかと不安ばかりでしたが、先生が難しい英語を使用するときはその単語の説明をしてくれたり、話すスピードも少し遅くしたりして、聞き取りやすくしてくれる先生もいたので、意外と授業な内容を理解することができました。この留学を通して、自分の英語力に少しでも自信をつけることができました。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今後はより英語力を高め、専門的な英語の知識を理解できるようにしたいと思います。また、今回成長させることのできたプレゼン力は今後の授業でも活用させていきたいです。また、今後論文や、レポート、プレゼンを行う際、今回学んだ理論を活用させながら、論を展開させ、より専門性の高いものにしていきたいと考えています。

CU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	N.I	学部・学科	国際商学部・国際商学科
学 年	2 年	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
コース名	International Summer Institute for Business Management		
期 間	2025 年 8 月 4 日～2025 年 8 月 22 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は毎日、9:00～12:00、13:00～16:00 の計 6 時間行われていた。授業内容は大きく分けると Business Communication と Business Management の 2 種類があった。Business Management はさらに Service Management、International Business、Entrepreneurship の 3 つに分かれていた。どの授業でも共通していたのは話し合いの時間やプレゼンをする機会が設けられていたことだ。座学とそれらの比率は教授によって異なっていたものの、どの授業でも自分の意見を発言する機会や話し合いを行う時間が設けられていた。これにより、より能動的に授業に参加できていたように感じる。授業内で印象に残っているのは AI の活用についてだ。私が留学したビクトリア大学は AI の活用を推進しており、授業内でも AI を積極的に使うよう言われていた。また、AI にどのように指示を出すと良いかを授業で教わることもできた。さらには“このような場面では AI にどのように指示を出すか”ということを考える課題もあった。

課題は最初の 1 週間はほぼ毎日出された。それ以降は最終プレゼンに集中するために減っていき、授業の予習が課題になることもあった。課題の内容としてはスターバックスやセブンイレブンなどの国際展開している企業について実際にカナダの店舗に足を運んで、自国の店舗と比較し、それをスライドにまとめる課題や教授から配られたクリップからわらしべ長者のように物々交換を繰り返し、その履歴をまとめるという課題のように実際の自分たちの体験を求められる課題が印象に残っている。また、特に印象に残っているのは最終プレゼンだ。最終プレゼンは各グループがアントレプレナーとなって新規事業案を提案するというものだった。この事業提案では具体的であることが求められた。ターゲットは誰で、競争相手は誰なのか、どの企業と提携するのか、金額はいくらで、コストはどれくらいかかり、どれほどの収益が見込まれるのか。とにかく具体性を求められ、授業内の課題というよりはビジコンの方が近いように感じた。そのため、どのグループもとても完成度の高いプレゼンっており、プレゼンを聞いているだけでも勉強になることが多かった。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

ビクトリア大学の授業では多様な知識と多角的な視点を得られた。まず、グループディスカッションを通して、異文化や他国の環境問題、政治、経済に関する知識を身に付けることができた。日本以外の国が出身のクラスメートもいたため、海外の実状について教科書では学ぶことのできない生きた知識を身に付けることができた。例えば、ある国の教育制度や就活に関する話は私にとって新鮮で興味深いものだった。また、日本について見つめ直す機会にもなった。各々が自国の状況を話す中で日本の社会問題について他国の人に解説するにはまだまだ知識が足りないことを感じた。また、スライドやプレゼンに関する知識も身に付けることができた。教授が効果的なプレゼンをするために必要なことをスティーブジョブスのプレゼンを基に教えてくださる授業があり、それを活かして最終プレゼンに臨むことができた。ただ学ぶだけでなくその知識を活かす機会があったため、知識がより定着したと思う。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は授業についていけるだろうかという気持や 3 週間という期間でどれほど成長できるのだろうかという心配があった。しかし、授業を受けた後、それらは杞憂だったと感じた。もちろん授業は簡単ではなかった英語が理解できなかった場面もあった。しかし教授やコーディネーターの方が親身になってサポートしてくれた。また、一つ一つの授業で得られる学びが多く、決して長くはない期間だったが成長することができた。加えて、授業を受ける前と比べて自分の意見を臆せずいえるようになった。授業内では自分の意見を発言する機会が多くあった。挙手して発言することもあればグループ内で出た意見をまとめて発言する場面、またプレゼンをする機会も多くあった。英語で発言することはとても緊張したがその分、英語で出来たのだから日本語で出来ないはずがないという自信にもつながった。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学での経験は今後の大学生活だけでなく社会人になってからも生かせると思う。留学したことで現地で実際にどのような文法や単語を頻繁に使うのかを知ることができた。その経験をもとにこれからも英語の勉強を継続していきたい。また、ビクトリア大学で学んだプレゼン能力は今後の大学の授業や社会人になったあとにも活かすことができる能力だと思う。今後は中長期の留学も見据えて大学の授業や自主的な英語の勉強に励みたいと考えている。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	K.K	学部・学科	国際商学部・国際商学科
学 年	2 年	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
コース名	International Summer Institute for Business Management		
期 間	2025 年 8 月 4 日～2025 年 8 月 22 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は基本的に一番初めに指定されたランダムなチームでグループディスカッションやチームプレゼンテーションをしながら進めていく。授業は Business communication, Entrepreneurship, Service management, International business に分かれていてそれぞれの授業において 2 人の教授が 1-2 日かけて授業をしてくれる。基本的にすべての授業において予習やグループプレゼンテーションなどの課題が課される。毎日それなりの量の課題が課されるので平日は授業が終わった後もグループで集まって話し合いをしたりしてとてもやる事が多くて大変だった。Business communication はビジネスにおけるコミュニケーションだけでなく異なる言語、バックグラウンドを持つ人たちとどのように意思疎通を図るのかについて授業内でさまざまな例を用いながら学んでいく。最後の授業ではチームでビジネスモデルを考えてプレゼンテーション形式で発表する。この発表でこの授業の成績が付けられる。Entrepreneurship, Service management, International business の 3 つの授業は基本的に実際のビジネスモデルのケースを学んでそこからグループディスカッション等をはさみながら先生の講義中心に進んでいくいわゆるケーススタディ型の授業だった。この 3 つの科目は最終日に Final Exam があり、その試験で成績がきまる。Entrepreneurship の授業は新しいビジネスモデルの立ち上げ方、アイデアのブラッシュアップの仕方などを学び、ブルーオーシャンについても学んだ。Service management は顧客の満足度、従業員の充実度を向上させる方法などについて学んだ。International business はある国で誕生して成長した企業が海外進出をする際の戦略などについて Walmart や Macdonald などの実際の企業例を通じて学んだ。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

基本的には横浜市立大学の国際商学部必修科目である経済学入門、経営学入門などの科目で学んだことを英語でもう一度学びなおすような形だった。ただ International business の授業内などで扱ったカナダのチェーン店と日本のチェーン店を比較して違いを見つけるなどの経験は留学でないと身に着けることができない経験だったと思う。また、一度学んだことがある内容でも英語で説明されると理解できないことが多々あったので英語で専門的な知識を学ぶことができたのは自分にとって大きな力になった。日本で学習したときは例として挙げられる会社や企業はやはり日本のものが多かったがカナダで学んだ際には国籍に関係なくとても広い範囲の世界中の企業について例に挙げて授業で学ぶことができたのでそこが大きな違いであり、興味深い部分でもあった。国をまたいで様々な広い範囲のことについて触れる機会が初めてだったので日本ではなかなかできないことだなと感じる。また英語という母国語ではない言語で学ぶことで新しい視点や違った感覚で学習ができたのですごく新鮮な経験だった。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前はネイティブの先生によるすべて英語の授業にちゃんといけるかどうかとても不安だったが授業を 1 つずつ受けていくとちゃんと授業についていけることが分かって安心するとともに自分への自信にもつながった。根本となる英語力と自分が大学生になってから身に着けた知識があればちゃんと授業についていくことができることが実感できた。横浜市立大学でも英語でやっている授業はたくさん履修してきたが、専門的なことを英語で学んだのは初めてだったのでとてもいい機会になった。グループワークが中心だったがグループの人たちとうまく付き合って協力していくことでプレゼンテーションの評価などに直結してくるのでその点も気を遣っていたがきちんとコミュニケーションをとることができたのでよかった。グループワークはかなりハードだったが毎日話し合いを重ねることで全員が納得でいるような発表になったと思う。

(4) 今後はどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

初めての留学だったが海外に住んで生活をし、英語ですべての授業を受けるということ乗り越えてやり遂げた自分に大きな自信を持つことができた。これからも自分の英語力を今以上にもっと鍛えて更なる高みを目指したいと思うような留学だったと思う。もっと積極的に大学での英語の授業を履修してたくさんの知識を付けて国際的に活躍できるような人材になっていきたい。まだ将来的な目標は明確に決まてはいないが英語を使うことができることは自分にとって間違いなく大きなアドバンテージになるのでこれからも頑張っていこうと実感した。